



～キリストの愛の精神にもとづき、こどもたちの未来と地域福祉の向上に努めています～

二葉のクリスマス ～日々の感謝を込めて～

3年超に及んだ新型コロナ感染が一段落し、昨年末は、久しぶりに対面でのクリスマスのお祝いを行うことができました。コロナ禍を経て実施方法の見直し・工夫を行った部分もありますが、子どもたちも職員も、楽しくクリスマスをお過ごすことができました。

今号では、日々の穏やかな生活が戻ってきたことへの感謝とともに、世界的には憂慮すべき多くの事態が一日も早く収まることを祈りながら、法人内のクリスマスの様子を紹介します。

「クリスマスに寄せて」 二葉支援の会 山崎美貴子代表*



御紹介いただいた本

子どもの頃のクリスマスでは、アドベントカレンダーを思い出します。日付の裏にチョコレートが組み込まれているものもあって、毎日の日めくりを心躍らせていました。そうやって楽しみに待ち望んでいたクリスマスが来てプレゼントをもらえるのも嬉しかったですね。

また、イギリスで子育てしていた頃には、本当に小さな村の雪の中で迎えたクリスマスもとても思い出深く、子ども達にイエス様の誕生の絵本を読み聞かせてアドベントを過ごしていた懐かしい日々です。

イエス・キリストは、今風に言えば「未婚の母」から、旅先の厩で生まれ、その誕生を羊飼いや賢人達が祝ったという、大変数奇な出生の方です。私達は聖書を通してその生涯に触れるとともに、クリスマスには改めて、この世に生を受けたことの意味を考えられればと思います。

私達は、「人に仕える」ことの大切さ・尊さ(それは、人をケアすることや様々な支援をすることなどになると思いますが)を学ぶべきではないでしょうか。そして、実際にはなかなか難しいこともあるのですが、笑顔を大切に、挨拶を忘れず、人との繋がりを一つ一つ大切にしていくことが望まれると感じます。

※2023年12月12日に直接伺ったお話をまとめたものです。



二葉南元保育園クリスマス会の様子(園児作品)



二葉南元保育園 「伝統の降誕劇」



毎年、11月中旬頃になりますと、あちらこちらの保育室から、降誕劇の中で歌われる賛美歌のうたごえが聞こえてきます。二葉南元保育園では、キリストの誕生をお祝いする会、クリスマス祝会が、12月に保護者や関係者をお招きして行われます。

コロナ禍、保護者の参加の制限やオンラインでの配信など、子ども達、保護者の皆様にはお願いや協力を経ながら、また職員による工夫を重ね続けられてきたクリスマス祝会ですが、今年はコロナ5類移行により、保護者や関係者の参加制限も緩和して、沢山の方々に見守られながら会を行うことができました。

クリスマス祝会では3歳児クラスは、クリスマス祝会を楽しもうというテーマのもと初めての劇を保護者の前で演じます。今年から3歳児クラスは単体でこの時期にあった内容の劇をすることにして、絵本の「てぶくろ」を題材に劇を行いました。最初はなかなかう

まく練習も行かなかった3歳児クラスでしたが、当日はとってもかわいい演技を披露することができ、子ども達、保護者の方々の笑顔がはじけていました。

4.5歳児クラスは、緊張感を持ちつつも劇を演じる喜びを共有し、キリストの生まれるまでのお話を伝えるというテーマをもとに降誕劇の練習を楽しみながら行いました。クリスマス祝会の当日、緊張しながらもたくさんの保護者に見守られる中で降誕劇を演じきった4.5歳児。無事にやり終えたことでの安堵と達成感を感じていたようでした。また、保護者、関係者の方々は、約1時間にわたる降誕劇をじっくりご覧いただき盛大拍手で子ども達を労っておられました。

これまで二葉南元保育園の過ごした子ども達も代々演じてきた降誕劇。今後も長く続けていけたらと思います。

橋爪 主税



二葉乳児院クリスマスの写真





二葉くすのき保育園「子どもたちへのプレゼント」



「今からおよそ2000年ちかい昔のこと、ユダヤのくにの、小さな町に、マリアという娘がいました。マリアは大工ヨセフと結婚する予定でした。……」 イエスキリスト誕生の喜びを一番先に知らされたのは、王様でもなく、役人でもなく、野原で羊の番をしていた羊飼いだいました。そして三人の賢者たちが不思議な赤い星に導かれて貧しい馬小屋に着いてみると、飼葉桶の中にキリストは産声をあげられておりました。その小さなキリストに賜り物をしたということにクリスマスは始まります。

私たちの保育園では、創始者野口幽香、森島峰がクリスチャンであったこともあり、伝統的に5歳児が降誕劇(キリスト誕生の物語)をし、4歳児の子ども達に見せてくれることで、クリスマスの意味を考えたり、給食室の愛情こもったクリスマス会食でささやかな祝会も実施しています。

また、開園当初から保護者と園それぞれから子ども



たちへクリスマスプレゼントを贈る伝統があり、保護者から我が子へ手づくりプレゼントを贈っていた頃から時代を経、近年は父母の会より子どもたちへクリスマスに合わせたご寄付をいただいています。クラスごとに遊具や備品等、子どもたちが日々の園生活で活用できるものを購入し、大切に使っています。コロナ禍にあっては、子どもたちが園内装飾で少しでも明るく楽しい気持ちで過ごせるとと父母の会を通じてクリスマス飾り等準備してくださり、子どもたちのこころが和らぎました。

園からは子どもたちへクラス担任からその年齢に応じた手づくりのものや絵本等を一人ひとりに贈っています。

森本 裕美





二葉むさしが丘学園「調理員手づくりのケーキやチキンでお祝い」



二葉むさしが丘学園のクリスマスは、子ども達と職員みんなで迎えました。

12月に入るとすぐに、園庭に大きな大きなクリスマスツリーが飾られます。夜になるとライトアップされるツリーの灯りは部活帰りの中高生を照らし、温かく出迎えてくれます。

園全体が真っ暗になる夜中まで、園の真ん中でみんなを照らしてくれるこの光は、冷たい空気をほんの少しだけ温めてくれる、この時期だけのモニュメントです。

このツリーの飾りつけには、コロナ禍の一昨年に職員と子ども達で作った手作りのオーナメントが使われています。感染予防のために外出や交流が制限される中で、みんなで協力して作成した思い出のツリー、二葉むさしが丘学園の象徴でもあります。

イヴの日の晚餐には毎年、手作りのケーキやクリスマスチキンなど、この日だけのごちそうに調理員が腕を振ります。ケーキに飾られたクッキーには、ひとつずつ子ども達一人ひとりの名前が書かれています。「みんなでひとつ」みんな全員で二葉むさしが丘学園

なのだという、ケーキを作った調理員からのメッセージです。

さらに、陶器を焼くのが得意な職員が用意したタイル型のオーナメントに、子ども達が絵付けをして飾ったり、調理員手作りのポップコーンを頬張りながらの映画の上映会を開催したり。各ホームの職員が工夫を凝らしたクリスマスパーティを演出します。

加えて、今年は、近隣の住民の方をはじめ、地域の医院の先生、お菓子屋のパティシエさん、公益財団法人の皆さまから、本当にたくさんのクリスマスプレゼントをいただきました。

そのどれもが温かく、地域の方々、支援して下さる皆さまの支えがあってこそこの二葉むさしが丘学園なのだ、あらためて気づかされます。

長い期間に渡ったウィルスの脅威が落ち着き、少しずつ元通りになってきた世界の中で、子ども達が新しい時代を生きていけるように。そう願うクリスマスイヴになりました。

土江 貴士



調理員手づくりのケーキとクッキー



子どもたち手づくりのオーナメント



園のクリスマスツリー

二葉学園クリスマスの写真





トリノス「仕事が忙しい中でのひととき」



トリノスでは12月24日に夕食で、クリスマスが無事迎えられた感謝を含めながら、チキン、ケーキを食べ、お祝いしました。利用者の多くが飲食店やサービス業で勤めており、クリスマスは繁忙期にあたるため、皆でクリスマス会とはいかないものの、各々クリスマスの雰囲気味わうことが出来ました。飾りつけでは仕事で忙しいながらも積極的に手伝ってくれました。

また、今年は担当職員からのお祝いのメッセージをクリスマスカードにして贈り、照れくさそうながらも

和やかな笑顔が見受けられました。年齢を重ねるごとにイベントへの関心は薄れつつありますが、いざその場面になると楽しんでおり、クリスマスとともに祝う良さを改めて感じる機会となりました。

神谷 流星



利用者も一緒に飾りつけ



クリスマスの食卓



二葉むさしが丘学園 新設サテライト「ゆうひ・あさひ」

二葉むさしが丘学園では、2023年の10月、本体施設からは少し離れた小平市小川西町に双子型のグループホーム、あさひ寮・ゆうひ寮を開設致しました。

隣り合った建物がそれぞれ男児寮と女児寮になっていて、幼児～高校生6名ずつの児童が生活します。

これまでもお世話になっていた地域の方に協力してもらい開設したグループホームは、新築で間取りも職員の意見を取り入れながら建てていただいたものです。

周辺は畑や公園に囲まれており、近くには地域センターがあります。地域の方にもよく声をかけていただくなど、とてもよくしていただき、子ども達はのびのびと過ごしています。休日は、近所の農園の方が子ども達を畑に連れていってくださり、農作業をお手伝いすることもあります。お手伝いのお礼として、収穫した農作物を

お土産としていただいて帰ってくるので、寮で調理して美味しくいただいています。

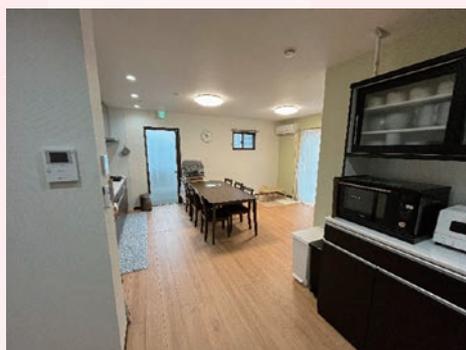
また開設するにあたって、立ち上げメンバーで寮の名前を熟考しました。二葉むさしが丘学園では、寮の名前が山の名称になっています。山の名称の中から、双子ホームらしさをイメージし、「ゆうひ・あさひ」に決めました。

ゆうひ寮は、勇ましく育っていけるように、あさひ寮は太陽が昇るように明るく育てほしいという意味を込めています。

職員も子どもも慣れない環境の中、不安いっぱいスタートでしたが、楽しく過ごすために子どもと大人で話し合いを重ねる中で少しずつ、落ち着いて生活できるようになってきています。

4月には新しいメンバーが加わる予定なので、双子ホームで協力し合いながら、子どもと職員で力を合わせて素敵な寮を作っていきます！！

田中 真結子



長年、二葉を支えてこられた梅森公代先生に 心より敬意と感謝の誠を捧げます。

元理事長・二葉乳児院院長の梅森公代先生逝去のご報告。



長年、社会福祉法人二葉保育園の理事長、二葉乳児院の院長を務められた梅森公代先生が令和5年12月12日、御年96歳で穏やかに天に召されました。

梅森公代先生は戦後の混乱期である昭和22年に二葉保育園に就職し、昭和39年から法人の常務理事、昭和40年から平成12年まで34年間二葉乳児院院長を、昭和48年から平成21年まで36年間もの長きにわたって理事長を務められました。

二葉は明治33年より事業を開始し、二葉幼稚園を創設、二葉の基礎を築かれ、我が国の児童福祉のパイオニアとなった野口幽香先生、次に昭和10年から昭和47年まで理事長として事業を発展させた徳永恕先生、それを受け継ぎ長きに亘って守ってこられたのが梅森公代先生です。

梅森先生が現役でご活躍の時に「野口先生や徳永先生から受け継いできた言葉の中に『二葉の人』という言葉があり、『二葉の人』は子どもを一番大切にする心を持つ人のことです。」と教えられたことがあります。大変な時代に子どもや女性や家庭や地域を支え、また、厳しい状況に置かれた子どもたちほど大切にされなければなら

ないと、常に「子どもファーストの実践」を児童福祉現場で継承し、展開をされてこられたお働きと功績は多大なるものがあります。現在の二葉にも永遠に引き継がれている児童福祉実践の理念でもあります。

つきましては、関係者の皆様に御参集いただき、長い間子どもたちのために、二葉のために尽くしていただき支えていただいた梅森公代先生を偲ぶ会(感謝の会)を開催します。

長い間二葉を、また子どもたちや職員を支えていただいた梅森公代先生の安らかな眠りをお祈りし敬意と感謝の誠をささげます。

社会福祉法人二葉保育園 常務理事

むとう そめい
武藤 素明

梅森公代先生を偲ぶ会

日時 令和6年3月30日(土)13時30分
場所 東中野教会(JR東中野駅徒歩5分)
参加希望者は社会福祉法人二葉保育園法人本部まで連絡を下さい。
電話 03-3341-1205

「二葉支援の会」への寄付のお願い

二葉保育園では、「二葉支援の会」が中心となって、法人内の各施設の事業や組織運営を支えていく活動をしています。ご寄付は、年一口5,000円以上をお願いしておりますが、金額は問わず、一人でも多くの方にご支援を頂きたいと思っております。ご入会・ご支援頂ける方はぜひ当法人本部までご連絡ください。

★当法人へのご寄付は社会福祉事業への寄付として確定申告をして頂くと税制上の優遇措置(寄付金の税額控除)が受けられます。詳しくは当法人本部までお問い合わせ下さい。

「二葉支援の会」お問い合わせ

社会福祉法人二葉保育園 法人本部

電話 03-3341-1205 (平日10時~17時)

E-mail info@futaba-yuka.or.jp

郵便振替

口座番号：00120-2-30321
口座名義：社会福祉法人二葉保育園

クレジットカード

社会福祉法人二葉保育園ホームページの「寄付のお願い」ページからお手続き頂けます。

銀行振込

三菱UFJ銀行 支店名：四谷支店
口座番号：普通0506208
口座名義：(福祉)二葉保育園 理事長 井上従子



この度、Syncable(シンカブル)のクレジットカード等寄付システムに変更しました。こちらのQRコードをご活用ください。

ご住所を入力する欄がないため、税額控除証明書をお送りできない場合がございます。銀行口座へお振込みの際は、お手数ですが法人本部へご住所をお知らせください。



社会福祉法人 二葉保育園 概要

法人本部

所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地
設立：1900年(明治33年)
理事長：井上 従子
常務理事：武藤 素明
理事：河津 英彦、押切 重洋、福田 敏朗、都留 和光、森本 裕美
評議員：宮沢 成実、磯谷 文明、潮谷 恵美、園 武友、関原 陽子、貫名 通生、浦上 充、竹内 よし子、橋本 ゆかり
監事：馬場 充、金子 恵美
職員：4名

二葉乳児院・地域子育て支援センター二葉

院長：都留 和光 副院長：長田 淳子
児童定員：40名 職員：124名
所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

二葉学園

統括園長：武藤 素明 園長：小倉 要
児童定員：58名(グループホーム8ヶ所を含む)
職員：93名
所在地：本園 〒182-0035
東京都調布市上石原2-17-7

二葉南元保育園

園長：橋爪 主税
児童定員：110名 専用型一時保育：10名 職員：42名
所在地：本園 〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

二葉くすのき保育園

園長：森本 裕美
児童定員：97名 職員：45名
所在地：〒182-0022
東京都調布市国領町3-8-15 都営くすのきアパート1号棟

二葉むさしが丘学園

園長：菅原 淳史 副園長：渡辺 剛史
児童定員 本園：60名(一時保護6名を含む) } 職員：78名
グループホーム：18名
ファミリーホーム：6名
所在地：本園 〒187-0011 東京都小平市鈴木町1-62-1

自立援助ホーム トリノス

ホーム長：相原 信一
児童定員(男子)：6名 職員：5名
所在地：東京都日野市
(成人を含む利用者の住所地となっているため非公開)

二葉とこども36号 2024年 3月1日発行 編集・発行 社会福祉法人 二葉保育園「二葉支援の会」

〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地 TEL：03-3341-1205 法人本部事務局 <http://www.futaba-yuka.or.jp>

